

秘

教科書に対する国民の関心と希望

内閣
昭和
三十三
年十
月一
日
官房
審議
室

096.54
7
223

◎ 調査方法

一、対象者

学童父兄（同一世帯に義務教育期間中の学童のいる家庭の満二十六才以上六十才未満の男女）三〇〇〇名

二、対象者抽出方法及び調査地数

層化多段無作為抽出法により、調査地点数は三〇都市九〇町村

三、調査実施方法

調査員（主として学生）が対象者を訪問面接し、質問紙に従ってインタビューした。

四、有効回収数

二、六四〇（回収率八八％）

五、調査実施期日

昭和三十年九月中旬

六、委託先

社団法人中央調査社



目

次

一、教科書制度についての認識	2
二、教科書についての不満、希望の概要	7
三、教科書の値段、教科書代金負担について	11
四、教科書の数について	17
五、教科書の印象、教育方針の了解程度等について	25

二、教科書制度についての認識

教科書が二種類以上あることを知っている

七一%

民間で教科書を編集していることを知っている

五七%

(民間だけで編集し、国で編集した教科書はないことを知っている三〇%)

学校で使用する教科書を誰が選ぶか、ほぼ正確に知っている

三八%

検定に合格した教科書でなければ使用できないことを知っている

三四%

教科書採択のため、展示会があることを知っている

三二%

教科書の種類がほぼいくつあるか(一〇—三〇種)知っている

一八%

教科書を幾種類も作る利点をのべたもの

三六%

(外に利点なしと答えたもの)

二一%

教科書を幾種類も作る欠点をのべたもの

五四%

(外に欠点なしと答えたもの)

七%

以上によつて、教科書制度について三割のものがほぼ概要を知っていると見られるが、若干の回答を組み合わせて次のような結果を得た。

教科書制度に対する認識の程度

(番号が若いものほど知識が高い)

- (1)
- (一) 同じ学年の同じ科目の教科書はいろいろある
 ということが、それが大体何種類あるかという
 ことを知っている。 上の四項を
何れも満足
する者………一%
 - (二) 同じ科目の教科書を幾種類も出しておくこと
 の得失を夫々指摘している。 ………
 - (三) 民間で自由に作つたものを検定して教科書と
 なることを知っている。 ………
 - (四) 展示会の時期を知っている。 ………

- (2) (一) 一(三)までを満足する者………五%
- (3) (一)と(二)を満足する者………三%
- (4) (二)だけを満足する者………二%
- (5) (五) 同じ学年の同じ科目の教科書はいろいろある
 ことを知っている。(それが何種類あるかは
 わからない) 上の二項を
満足する者………二九%
- (二)の得失のうち答えられないものが一つある。

(6) 国だけ満足する者……………一五%

(7) 内 同じ学年の同じ科目の教科書はいろいろある
ことを知らない。 上の二項を
満足する者… 八%

□の得失のうち答えられないものが一つある。

(8) 内 だけを満足する者（ほとんど何も知らない者）……………一七%

問「あなたは今学校で使っている教科書を御覧になったことがありますか。

内容なども大体よんでみましたか。」

見たことがある 内容を大体読んだ 六一%

「 読んだことはない 二八%

教科書を見たことがない 一一%

問「近頃学校の教科書のこと、国会や政府で問題になっていることを、新聞やラジオ

で見たり聞いたりしたことがありますか……………」

主にどんなことを問題になっていると聞きますか。」

聞いたことはない三九%
聞いたことがある六一%

教科書会社の売込み

検定制度

国定

教科書の数

教科書の偏向

その他

何が問題になつていないか知らない

一六%

一五%

一五%

一二%

一〇%

五%

一五%

(二つ以上答えたものがあるので計は六一%を超える。)

問「教科書会社が自分の会社で作つた教科書を使つてもらつたために、教育委員会や先生にいろいろ運動するという話を新聞やラジオで見たり聞いたりしたことはありませんか。」

あ

四九%

な

五一%

三、教科書についての不満、希望の概要

1 教科書の内容が適当でないから変えてほしいと強硬な意見をのべた父兄が7%ある。

問「社会科にかぎらず、お子さんの教科書の内容は、お子さんの学年のものとして大体適当だと思いますか、そうは思いませんか。(不適当と思うものに)できれば教科書を変えてほしいとありますか。」

適当と思わない

教科書を変えてほしい

七%

大体適当と思う、わからない

八八%

2 教科書のこと、自発的に、教科書についての不満を具体的にのべた父兄は20%である。

問「小学校・中学校の教科書のこと、なにか困ることはありませんか。」

困る点はない、わからない

八〇%

困る点がある

二〇%

教科書の内容が適切でない(注一)

六%

教科書代が高くつく

五%

教科書が変りすぎる(注二)

四%

同一学年同一学科の教科書が幾種類もある(注二)

三

教科書としての重みが足りない、製本・印刷が安っぽい、誤字がある

三

その他(売りこみ運動・採択方法等)

二

計(一人二つ以上答えている)

二三%

(注一)教科書の内容に対する不満

社会科学教科書の思想的傾向についてのべた父兄は1%である。

5%は、「系統的に知識を教えない」、「家で勉強を見てやれない」など新教育方針に反対、もしくはなじめないものと、「内容に誤りがある」、「

「内容が充実していない」など、教科書の内容が粗末に作られているとするものとあり、前者の場合は、旧教育方針への切かえ、歴史、地理の社会科学からの独立とつながっている。

(注二)教科書が変る、種類が多い

「転校の時困る」、「上の子の教科書を下の子が使えない」、「学校によつて差ができるからこまる」という言葉がしばしば用いられる。

これらの表現は「教科書がなかなか手に入らなくて困った。教科書を二重に買うことは重荷である。社会的損失である。受験に困る。田舎の子供は

都会の子供にますます後れる」等の實際的意味で用いられている。

しかし、必ずしも實際的経験に基いたものではなく、「転校する時、別の教科書に適應するのに苦労する。兄弟が別の教科書で、違つた人間に教育されては困る」という意味をふくめて用いられる。

このような考えは「今の教科書では知識を系統的に教えない」というものと同じく、新教育の方針に共感した意見でないことは確かであり、結果論としては固定教科書にもつながるが、教科書を一種の「国民の経典」と見る考えに立脚し、「神聖なもの」と見る變故に、「教科書はやたらに教がたくさんあるべきものでもなく、ちよいちよい変えるべきものではない。」という意見が出ると解釈される。

3 以上のように、現行教科書について、自発的に不満をのべたものは二割であるが、個々の点に分解して質問すると、半数以上のものが不満をのべる場合も少くない。

三、教科書の値段、教科書代金負担について

父兄の五九%は教科書の値段を高いと思つてはいない。しかし、「教科書の質はおととしても値段を安くしてほしい」と希望する父兄が二四%あり、教科書の値段の評価、教科書代金負担の苦痛、教育費負担の苦痛と焦点を拡げて質問することにより、不満が増加し、「教育費がかかりすぎる」という父兄は五〇%に達する。

教科書の質は悪くしても値段を安くした方がよい

二四%

今の教科書は品物の割に値段が高い

二九%

学校にかかる金の中でも教科書代が高すぎる

三八%

教科書は品物の割に高い、使用する教科書が多すぎると

いう評価の外に、教科書代の負担が大きいというものも

ふくまれる。

学校へ子供をやるのにお金がかかりすぎる

五〇%

教科書費以外に、教材費、PTA会費、給食費、見学

旅行費、等々までふくまれる。

これらの希望や苦情は、いずれも経済力の低い父兄ほど多く、最下層では「教育費がかかりすぎる」七割、「教科書の質はおとしても値段を安くしてほしい」四割に達する。また、

教育費支出金額の多い父兄ほど（学童数の多い父兄、学童数が同じ場合は高学年の学童を持つ父兄）ほど、「教育費がかかりすぎる」というものが多い。

教科書の値段を評価する基準があるかどうかは別として、「品物の割に教科書は高い」と評価した父兄が三割あることは（最下層では「高い」と評価するものと「安くしてほしい」というものは殆んど重なり、四割）であるが、この評価は、半数の父兄にとっては義務教育費が重荷であるという事情を背景において解釈されるべきであろう。

「教育費がかかりすぎる」という苦情は、大都市（四二%）よりも郡部（五四%）に多い。農村は戦前以上に生活水準が向上し、教育費は都市よりもはるかに少く、前にのべたのと逆の傾向を示す。しかし、これは、教育の実用的効果が大都市ほど高く、義務教育だけで終つたことを大都市居住者ほど強く残念に思い、それだけに子供の教育に熱心な父兄が多いためと推察され、また他方では、農村の生活水準そのものは必ずしも高くないためでもある。

問

「今は学校へ子供をやるのに、お金がかかりすぎると思いますが、そうは思いませんか。」

お金がかかりすぎる

そうは思わない

不明

計

五〇%

四五

五

一〇〇%

教育費がかかりすぎるといふものの分布

生活程度	生活程度		学年と児童数	原則として一人	原則として三人	郡部
	上	中上				
上	三三%	四四%	小学低学年生	小学高学年生	小学低学年生	三九%
中上	四四%	四八%	小学生だけ	小学生と中学生	小学低学年高学年	五七%
中	四八%	五八%	小学生と中学生	小学生と中学生	小学生と中学生	五四%
中下	五八%	六八%	小学生と中学生	小学生と中学生	小学生と中学生	五七%
下	六八%		小学生と中学生	小学生と中学生	小学生と中学生	六〇%
						六大都市四二%
						中小都市四九%
						郡部 五四%

「学校にかかるお金の中でも、教科書代が高すぎると思いますが、そうは思いませんか。」

教科書代が高すぎる そうは思わない

不明

計

三八%

五七

五

一〇〇%

教科書代が高すぎるといふものの分布

生活程度	上	中上	中	中下	下
甲	二二%	二九%	三七%		

問

「今の教科書は、品物の割に値段が高いと思いますか、それだけの値打はあると思
いますか。」

生	
中下	四五%
下	六〇%

教科書は品物の
割に値段が高い

それだけの値打がある

不明

二九%

五九%

一二%

教科書は品物の割に値段が高いというものの分布

問

「教科書は、今より高くなつても、質をよくした方がよいと思ひますか、質は多少
悪くなつても、今より安くなつた方がよいと思ひますか、今ぐらいて丁度よいと思
ひますか。」

生活程度				
上	中上	中	中下	下
二一%	二五%	二八%	三二%	四三%

教科書の質は悪くなつても安くした方がよいといふもの分布

質は悪くなつても安くしてほしい 二四%

今がちょうどよい 四〇%

高くなつてもよい教科書を 二六%

わからない 一〇%

生活程度				
上	中上	中	中下	下
九%	一九%	二一%	三一%	四二%

四 教科書の数について

「隣り近所はなるべく同じ教科書を使った方がよい」というものは七七%に達する。

原則論として「学校によつて違う教科書を使うのは困る」というものが五四%、「いろいろ違った教科書を使う方がよい」というものは二五%。

この中で「日本國中全部同じ教科書を使う方がよい」というものが三〇%、現在程度（一科目につき一〇と二〇種）の数はあつた方がよいというものが八%、「現在より教科書の数を少くした方がよい」というものと、「多少は違った教科書があつてもよい」というものと合わせて四一%ある。

教科書が幾種類もあることの利点と考えられている若干のものを利用して誘導質問を試みても大体三五%程度のもものは誘導を受つけない。「日本中が同じ教科書を使うと、国民の知識や考え方が全部同じ型にはまつてしまつてよくない」というもの二九%にたいし、四一%は「かえつて統一がとれてよい」と答えている。（注二）で先にふれたところであるが、教科書はただ「教育の材料」として考えられているよりも、「教科書そのものが学ばれるもの」と考えられている場合が多い。

教科書の数はいくつあつた方がよいか、その理由

問「隣り近所の学校はなるべく同じ教科書を使った方がよいと思ひますか、それぞれ別であつてもよいと思ひますか。」

同じ方がよい	別々でよい	わからない	計
七七%	一一%	一一%	一〇〇%

高専大学卒	中卒	高小卒	小卒
七五%	七七%	七八%	七五%
一七	一五	一〇	七
八	八	一二	一八
一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%

問「同じ学年の同じ科目の教科書は、いろいろある方がよいと思えますか、学校によつて

違つては困ると思えますか。」

(いろいろある方がよいもの)

「現在一科目について一〇、二〇くらいありますが、いまのままで適當と思えますか、

多すぎると思えますか。」

(違つては困るもの)

「全部同じ方がよいと思えますか、多少は違うものがあつた方がよいと思えますか。」

教科書がいろいろあるのはよくない	五四%	全部同じ教科書にしたほうがよい	三〇%
多少違うものがあつてもよい	一一四%	多少違うものがあつてもよい	四一%

いろいろある方がよい	二五%	今は多すぎる	一七%
不明	一一%	今のままがよい	八%

不明	一一%	今のままがよい	二一%
----	-----	---------	-----

教科書 制度に ついて の認識 の番 号の若 いもの と高 小	8.	7.6.	5.	4.	3.	2.	1.	全部同じ教科書 にした方がよい	現在は多すぎる 違う教科書があつて よい	現状が 適当	不明	計
高専大学卒								二三	六七	八	二	一〇〇%
中卒								二九	四九	一〇	二	一〇〇%
高小卒								三一	三九	八	二	一〇〇%
小卒								三二	二九	八	三	一〇〇%
二〇才代								三三	四四	一二	二	一〇〇%
三〇才代								二八	四三	八	二	一〇〇%
四〇才代								二九	四一	九	二	一〇〇%
五〇才代								三六	三二	六	二	一〇〇%
計								一一八	五二	三二	四	一〇〇%

教科書 制度に ついて の認識 の番 号の若 いもの と高 小	8.	7.6.	5.	4.	3.	2.	1.	全部同じ教科書 にした方がよい	現在は多すぎる 違う教科書があつて よい	現状が 適当	不明	計
高専大学卒								二三	六七	八	二	一〇〇%
中卒								二九	四九	一〇	二	一〇〇%
高小卒								三一	三九	八	二	一〇〇%
小卒								三二	二九	八	三	一〇〇%
二〇才代								三三	四四	一二	二	一〇〇%
三〇才代								二八	四三	八	二	一〇〇%
四〇才代								二九	四一	九	二	一〇〇%
五〇才代								三六	三二	六	二	一〇〇%
計								一一八	五二	三二	四	一〇〇%

問「同じ教科書を幾種類も出しておくことのよい点としては、どんな点が一番大きいと思
いますか。」

問「同じ科目の教科書を幾種類も出しておくことのまずい点としては、どういふことが一
番大きいと思えますか。」

よい点をあげたもの よい点はない わからない 計

三六% 二二% 四三% 一〇〇%

まずい点を
あげたもの まずい点はない
というもの わからない 計

五四% 七% 三九% 一〇〇%

よい点をあ
げたもの 三六%

- 自由に選べる、地域・時勢・能力に合わせる 二五%
- 内容を豊かにすることができる 四%
- 偏らない、民主化のため 二%
- 競争で安いものができる 三%
- その他 三%

(二つ以上あげているものもあるので、計は三六%をとえる)

まづい点をあげたもの

五四%

地域差・先生好みによる差ができる、統一がとれなくなる

一八%

伝授の時困る(買にくい、適応しにくい、うまくつづかない)

一七%

つぎの子供に授けない

五%

途中で変るので教育の一貫性が失われる

四%

高い

四%

罅穴を誤る、選択に迷う

三%

売込み・汚職が起る

四%

粗悪品が出る

一%

その他

三%

(二つ以上あげたものがあるので計は五四%をとえる)

七%

四四%

問「もし日本國中が全部同じ教科書を使うと、将来の国民の知識や考え方が全部同じ型にはまってしまうてよくないと思いませんか、かえつて統一がとれてよいと思いませんか。」

統一がとれてよ
よ
同じ型にはまつてよくない

四一%

二九

その他
不明

四

二六

計

一〇〇%

教科書 制度認 識の程 度	8	7.6.	5.	4.	3.2.1.	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
二〇才代	四二	二八	二	二八	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
三〇才代	三二	三七	二	二六	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
四〇才代	二九	四一	二	二五	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
五〇才代	二〇	五一	二	二六	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
高専大学卒	五七	二二	一	一一	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
中卒	三九	三五	七	一九	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
高小卒	二七	四五	三	二五	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計
小卒	二〇	四三	二	三五	一〇〇%	同じ型にはま つてよくない	統一がとれ てよい	その他	不明	計

問「教科書にもいろいろ種類があつて、その土地、土地の事情にあつたものを自由に選べた方がよいと思ひますか、わざわざそのためにいろいろの教科書をつくつておく必要はないと思ひますか。」

自由に選べた方がよい	つくつておく必要はない	計
五〇%	三四	一六
		一〇〇%

問「先生が一番よいと思つた教科書を選べるようにいろいろの教科書があつた方がよいと思ひますか。」

いろいろあつた方がよい	不必要	わからない	計
四八%	三五	一七	一〇〇%

問「学校によつて教科書が違いますと、そのために学校によつて学力に差ができてまいと思ひますが、それはあまり問題にしないでよいと思ひますか。」

学力の差ができてまい	問題にしないでよい	わからない	計
四八%	三六	一六	一〇〇%

現行教科書制度に批判的なもの(五四%).....

- 1 教科書は同一のものがよい 五四%
- 2 学校によつて違ふと学力差がでてまい 四八%

3 全国同じものを使うと思想の統一がとれてよい 四一%

4 教師がよいものを選ぶようにいろいろある必要はない 三五%

5 地域の実情にあうようにいろいろ作る必要はない 三四%

右のうち

1 を満足するもので他の四項を満足するもの 九% (1)

三項 一四% (2)

三項以下 三一% (3)

現行教科書制度を肯定するもの(二五%).....

6 教科書はいろいろあつた方がよい 二五%

7 全国同じものを使うと考え方が型にはまつてよくない 二九%

8 学校によつて学力差ができることは問題にしなくてよい 三六%

9 教師がよいと思つたものを選ぶようにいろいろあつた方がよい 四八%

10 地域の実情にあつたものを選ぶ方がよい 五〇%

右のうち

6 を満足し他の四項を満足するもの 三% (6)

三項 一三% (5)

二項以下 九% (4)

現行教科書制度に意見がないもの(二一%)..... (7)

五、教科書の印象、教育方針の了解程度等について

問「今の教科書は昔の教科書に比べて、何となく明るくてよいと感じますか、それとも安っぽい感じでいやだと思えますか。」

明るくてよい 七〇%
 安っぽい感じがよい 一三%
 わからない 一七%

問「昔の教科書は今のに比べて、威厳や重みがあつてよかつたと思えますか、重苦しくていやだと思えますか。」

威厳や重みがあつてよかつた 四二%
 重苦しくていやだ 三三%
 わからない 二五%

問「近頃の小学校、中学校の教育と昔の教育と比べると、どちらがよいと思えますか。」

今の教育がよい 五一%
 昔の教育がよい 二五%
 わからない 二四%

問「細かい点までわかりやすく子供に教える先生と、なるべく子供がひとりで勉強してゆくようにしむける先生と、どちらの方がよいと思えますか。」

細かい点まで教える先生がよい 五三%

ひとりで勉強するようにしむける先生がよい 三九%

不 明 八%

問「近頃の先生は大体そのどちらだと思えますか。」

細かい点まで教える 一七%

ひとりで勉強するようにしむける 六四%

不 明 一九%

問「日本の歴史はいま社会科の中で教えていますが、今のままでよいと思えますか、それとも国史という科目を別にこしらえて教えた方がよいと思えますか。」

今のままでよい 三三%

国史の別科目に 四六%

不 明 二一%

問「今の社会科の教科書では、よい悪いはともかく、国や愛国心や天皇のことをありのままのせていないと思えますか、そんなことはないと思えますか。……」

そういうことをもつとのせた方がよいと思えますか。そうは思いませんか。」

ありのままのせていない 七二%

そんなことはない 一五%

わからない 一七%

国や愛国心や天皇のことをもつとのせた方がよい 四六%

その必要はない 三五%

わからない 一九%

国史を別科目に 二〇才代 三〇才代 四〇才代 五〇才代

今のまままでよい 三八% 四三% 四八% 五〇%

わからない 二四% 三一% 三二% 二六%

計 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%

わからない 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%

計 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%

二〇才代 三〇才代 四〇才代 五〇才代

愛国心、天皇のこと
をもつとのせる 三三% 四二% 四六% 五四%

その必要はない 四六% 三九% 三三% 二三%

わからない 二一% 一九% 二一% 二三%

計 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%

問「礼儀作法や、しつけを学校でもつときびしく教えてもらいたいと思いませんか、
そういうことは今ぐらいで十分だと思いますか。」

もつときびしく 七二%

今ぐらいで十分 二四%

不明 四%

補遺

「教科書を幾種類も出しておくことのまずい点」として、「転校の時困る」とのべたものが一七%ある。ところが、転校・紛失などのために学年の途中で教科書を求めねばならなかつたものが八%、その半数の四%が「教科書がなかなか手に入らなかつた」と答えている。

実際に手に入らなかつたものを年度別に見ると、次表のようになり、年度の古いものには忘れたものや、今回の調査の対象者にならなかつた父兄もあり、教科書をなかなか買えなかつたものは四%を相当上まわると思われる。

それにしても、買えなくて困つた人は四%で、「転校の時困る」という人が一七%あることは、教科書が買える買えないの問題だけではなく、「違う教科書に適應することの困難さ」を問題にしている一例と見られる。

教科書を買えなくて困つたというもの(四%)の買えなくて困つた年度

昭和二三年	二四年	二五年	二六年	二七年	二八年	二九年	三〇年	不明
二	三	一〇	九	一九	一八	一五		

計

一一四

1992. 5. 29

石川二郎氏
寄贈編入

石川二郎文書